

男女共同参画情報コーナー



～一人一人が幸せを実感できるまちへ～

【編集】＝「とらいあぐる」編集員

【問合先】＝本庁企画政策部 ひとみらい政策課
ひとみらい政策グループ

☎(23)5111(内線4741)

男女共同参画の視点から見る

「メディア・リテラシー」

私たちは、日々の生活の中でテレビ、新聞、雑誌、インターネットなど、さまざまなメディアに触れています。

無数の情報が発信される中で、知らず知らずのうちに情報に流され、誤ったイメージで自分自身を縛り付けていませんか。

今回は、男女共同参画の視点で見る「メディア・リテラシー」について紹介します。

■メディア・リテラシーとは

メディアからの膨大な情報に対して、これらをうのみにするのではなく、活用するための次の3つの能力のことです。

- ①情報を収集する能力
- ②情報を主体的に読み解く能力
- ③読み解いた情報を自分自身の表現で発信する能力

■男女の表現について

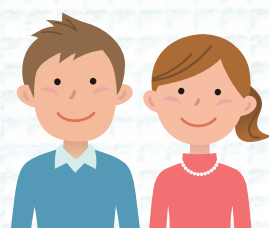
メディアの中には、次のようなイラストなどの表現もあり、本来の内容とは別に、男女に関する固定的なイメージを与えてしまう可能性があります。



男性は仕事、女性は家事という固定的なイメージ



男性は上司であり、女性は部下であるというイメージ



男性の服は寒色系、女性の服は暖色系であるというイメージ

固定的なイメージを与えない表現の一例



- ・男性・女性が仕事、家事、育児に一緒に取り組んでいます。
- ・男性・女性に関係なく、対等な立場で仕事に取り組んでいます。
- ・男性・女性に関係なく、さまざまな格好をすることができます。

このように、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべき」と固定的なイメージを持たれることで、自身の持つ力や個性を発揮しづらくなる可能性もあります。

私たちが日頃見聞きするさまざまなニュースや記事、映像などは、膨大な事実の中の切り取られた一部分にしか過ぎません。新聞記事一つを取り上げても、同じニュースであるにも関わらず、取り上げ方や論調が各社ごとに異なっていることに気付かれます。

メディアは、仕事や知識の習得などの情報源として、私たちの生活に欠かせないものです。一方で、メディアから発信されるジェンダー(社会的・文化的に作られた性差を、私たちは無意識に取り込んでおり、知らず知らずのうちに、こうした価値観や考え方が形成されていきます。

発信者の意図や目的を考えながら、情報を受け取る習慣をなるべく早いうちから身に付けることが大切です。

また、私たちは誰もが、情報の受け手であると同時に、発信者でもあります。情報を正しく読み取り、その情報を正しく発信できるよう、メディアと上手に付き合い、情報を賢く活用しましょう。

